

御嶽権現の古文書

― 鳥居鎮座火男火女神社資料 ―

松岡 実

山廻給 都合 十石内
畠高 五斗
田高 六石
畠高 四石

右之表其村ニ於テ永宛行所如件

明曆四年七月十一日

萩原 家中居新左衛門

大角 隼永

鈴鹿采女

全 左京

庄屋 作兵衛どのへ

第一号

(鳥居鎮座火男火禊神社藏)

明曆四年社領狀

豊後国速見郡朝見庄

立石村神社二座

一、天満天神社領 田高七斗七升四合

一、霧島権現社領 高壱石壱斗壱合

高 七斗一升一合

田高 四石七斗二升六合

畠高 二斗九升九合

庄屋給 高 壱石内

田高 五斗

第二号

(古屋勝馬氏藏)

朝見庄立石村之

神社 二座

天満天神社領 田高七斗四合

霧嶋 〇 島高老石巻斗巻合

高七石一斗二升五合 〇 四石七斗二升六合

庄屋給

島高 式石三斗九升九合

山廻給

高都合 拾石内

田高 六石

島高 四石

右之 〇 永〇罷行所如件

萩原家

〇 七月十八日

中居新右衛門 (花押)

大角良永 (花押)

鈴鹿采女 (花押)

鈴鹿左京 (花押)

庄屋 作兵衛とのへ

第二号

(宝永四年證文)

證文之事

一、豊後国速見郡東畑村立石村境従前ノ論於令ニ相済不申候ニ付今度氏神龜宝山權現宮破損ニ及候故違之儀其外各様御取〇ヲ以テ東畑村立石村庄屋百姓不殘領掌納得仕相済申候事

一、従前之論地之分者不殘双方共ニ權現ニ奉寄進御神地ニ仕候様ニト段々御取〇被成下候ニ付双方共ニ御請申相済申候然ル上ハ後事ニ至リ東畑村立石村双方共認構無之申分無御座候事

一、当年御宮建立之儀者不申及於後年御宮鳥井觀音堂共ニ東畑村立石村相資宮建立修覆仕等ニ御座候得共其意双方領掌之上左様ニ相定度事
一、御宮之御戸開申儀鎖ニ前ニ構石鏝者東畑村 兵衛老鏝ヲ立石村五右衛門人ニ而預リ何時モ立会御戸開申等ニ極メ申候 未代左様ニ相等相続可仕候事

一、社人之儀東畑村ヨリハ石垣村神太夫立石村ヨリハ浅見村河内〇双方ヨリ兩人ニテ相勤被申等ニ御座候事

一、当年ノ儀ハ不申及於後年ニ遷宮之ハ東畑村角兵衛立石村五右衛門相寄合勤可申旨御〇得共其意申候然ル上ハ立会異儀無相勤可申候 并御太刀其外御宝物等持申儀且又双方相寄り合勤可申候事

附 御祭礼之節七五三繩並歲繩等是亦東畑村立石村双方ヨリ役人

出人出合等分ニ相勤可申候其外左様ノ○各右可爲同前事

一、御祭礼之儀東畑村立石村相寄合勤可申候

於舞殿座席ノ儀ハ西ノ方ハ東畑村座居 東ノ方ハ立石村 座居ト

相定申候事

唯○迄論地ニテ有之度間三道三町ヨリト有之候 此分一ヶ年替東

畑村立石村ヨリ 作可申候間向後右之通境ノ申分仕間敷候事

一、鳥居ヨリ權現宮へ參り候道筋而正シク時分ハ東畑村立石村ト出合

作可申候事

一、右之通り此度各様御取被成仍ニ付東畑村立石村庄屋百姓中不殘領

掌納得仕御請申相濟申候所紛御座無候 此ヒ者後年末代迄○相違

ノ儀申間敷候 於後年若否之儀仕候共此証文並ニ東畑村立石村双

方ニ取替ノ申證文引合相改採明落着可仕候 爲其証文仍如件

宝永四年丁亥十月朔日

御公領 速見郡東畑村庄屋

覚右衛門 ㊦

同村 頭百姓

助之煎 ㊦

(以下十名連署 略)

萩原三位殿領 同郡立石村庄屋

作兵衛 ㊦

同村 頭百姓

五右衛門 ㊦

(以下十名連署 略)

同郡山ノ口村庄屋

六左衛門 殿

同郡田ノ口村庄屋

久左衛門 殿

如斯証人相調東畑村立石村双方共ニ庄屋頭百姓不殘連判ヲ以ツテ御

証人衆右兩人ニ相渡申候然ル上者後年末代双方共堅ク相守申分等仕

間敷候爲其証人衆相渡申候証人ノ写此通奥書ヲ加へ御証人衆以加判

ヲ双方ニ取替申所仍而如件

宝永四年丁亥十月朔日

速見郡立石村庄屋

作兵衛 ㊦

同村 頭百姓

五右衛門 ㊦

(以下十名連署 略)

証文

同郡 山ノ口村庄屋

六左衛門 ㊦

同郡 田ノ口村庄屋

久左衛門 ㊦

速見郡東畑村御庄屋

覺左衛門殿

同証文所在地(現存)

火男火禿神社藏別府市東山鳥居

古屋勝馬氏藏 全 南立石堀田
(立石村庄屋家)

田中勇氏藏 全 東山城島
(東畑村庄屋家)

第四号

(鳥居鎮座火男火禿神社藏)

享保二十年 立石村明細帳

岡田庄大夫様御代

一、畑 高 壹石壹斗壹合

霧島權現宮御除地

此反別貳反五畝拾壹步半

中畑 貳畝貳拾步 六斗代

高 壹斗六升

下畑 貳反壹畝拾五步半

四斗

高 八斗六升壹合

下々畑 拾四步 三斗代

屋敷畑 貳拾貳步 九斗代

高 六升六合

右御除地之儀萩原三位御知行之節

明曆四年右両社江御寄附被成置條候

御書付御座候

一、霧島權現社

毎年九月九日御祭礼御座候宮主五右衛門

壹ヶ所 本寺豊後真言宗

蓮花院未寺

真言宗 一行常寺

右同断社畑御除地ニ而 御座候

前ニ書付申候

第五号

享保二十年卯閏三月

岡田庄大夫様御代

豊後国速見郡立石村

明細帳

元和元年細川越中守様御檢地水帳名寄帳用相候

一、高千石ノ内

石八斗七升五合

霧嶋權現天神宮御除地引

中略

毎年九月九日御祭礼御座候

宮主 五右衛門

一、龜〇〇權現社々所

本寺 豊後 真言宗蓮花院末寺

真言宗 行常寺

右同断 社畑御除地ニ而御座候所ハ前ニ書付申候

享保貳拾、年閏三月

豊後国速見郡東畑村

銘細帳

切取 權現宮

本社 九尺 貳間 小板葺

拜殿 貳間 三間 茅葺

境内ニ有之候

観音堂 九尺 貳間 同断

是者氏神ニ而露見嶽ニ御座候 修覆建替之儀当村椿村立石村話合取

〇申候

右祭礼毎年九月九日社人吉田未流同郡南立石村宮之進朝見村 負立

会社殿相勸申候

第六号

弘化三年丙年八月

權現宮御上棟諸事杞帳

東畑村

覚

一、鏡餅

大 三重 中 四重 小拾貳重

御神様

一、同 御口 三重

一、同 大工分 拾四重

一、満きもち 数五百

以下 略

第七号

文久三年

豊後国速見郡東畑村銘細帳

一、霧嶋權現宮

横灘村南石垣社人

佐藤近江

右境内ニ有之候 観音堂

是者当村〇〇立石村右三ヶ村産宮ニ而

入会毎年九月九日祭礼相勤申候

修覆建替右三ヶ村ニ而仕来申候

第八号

(古屋文書)

戊六月立石村庄屋作兵衛

同 所頭百姓

乍恐謹而言上

一前略一

權現宮同観音堂御座候被權現宮之末社一ノ護王之社者立石村東ノ入
口下ニ御座候

二ノ護王之社者權現宮鳥居之前ニ御座候權現宮之宮主者立石村住人
五右衛門登申者依先祖神職不怠相勤申候 以宮守ニ者山伏之所先年
居〇申候 此權現社領之儀古代之例ヲ聞伝古萩原様御代成申候而〇
先年申立申上候〇者畠武段五畝拾歩社領申付ケ〇成宮守之山伏当今
作来リ居申候如此諸事立石村より仕配仕来リ申候事相違無御座候事

第九号

立石村庄屋が戊六月御上使様御用

御奉行宛 訴之出た要旨

立石村分である權現宮、観音堂まで東畑村が押しとり 立石村分の
硫黄ヲ勝手に掘子をつかつて盗掘した。それでは困ると願ひ出た。

第十号

南立石本村 古屋勝馬氏藏

明治二年己四月

豊後国速見郡立石村高反別銘細帳

毎年九月九日御祭御座候

一、鶴見權現社 杵ヶ所宮主

五右衛門

右同所社畑御除地ニテ御座候処者前ニ書上申候

一、真言宗 行常寺

是者火男火女之神社附ニ而御除地之内ニ御座候

第十一号

荒金系図 年代不明

宗敬 荒金備前守

都留身嶽 火男火壳命從先年祭祀又社頭守護スルヲ以右社祢神官ト

被定鍵取ハ後代相継矣

第十二号

豊後国速見郡

東畑村神社取調帳

神 主

字防嶽

一、鶴見嶽神社 神殿立八尺 横九尺 拝殿二間 四間

式内 豊後国速見郡東畑村

祭神 増々耳命

伊邪那伎尊 伊邪那美尊

但 本體

延喜神名式目

火男火壳神社 二座 並小

光仁天皇御宇 宝亀 庚 元 戊

ニテ其後貞觀

年中鶴見嶽山上ニ火氣大ニ盛ナルヲ以ツテ人民大恐怖致シ同九年

伊邪那美尊ヲ火男火壳神奉祭

一、勅書 勅書 等者無御座候

一、宮記等有来処天保九 年 成 隳失ニ相成只今ニテ者書附等無御座候

一、仏像ヲ以神體ト仕候

類並龕口等御座候

一、梵鍾御座候間此節取除置申候

一、除地ニテ御判物立石村ニ御座候

一、別当社僧並平人ニテ祭祀ヲ掌候向無御座候

一、境内觀音堂一字仏像一體御座候

一、神器神宝仏具經卷等無御座候

一、毎年恆例之祭日 大祭九月八日九日

但東畑村椿立石土地産神東畑椿兩村ノ神主佐藤近江 立石之神主

朝見神出羽立合ニ而祭来申候

宮主 東畑村 田中覺兵衛

立石村 荒金五右エ門

一、勅祭無御座候

一、山神宮

祭神 大山祇命 但石像

右同断 祭日 十月廿五日

字 西

一、山神宮

祭神 大山祇命 但石像

右同断 祭日 十月廿三日

字 北

一、山神宮

祭神 大山祇命 但石像

右同断 祭日 十月廿五日

字 中井

一、山神宮

祭神 大山祇命 但石像

右同断 祭日 十月廿四日

字 北

一、加久良神

祭神 猿田彦命 但御幣

右同断 祭日 十月五日

撰社

字 小杉

一、山神宮

祭神 大山祇命 但石像

勸請年月不相分候

祭日 十月廿四日

字 片山

一、小祠 七ヶ所

当村ニ社家社僧修驗等無御座候間同国同断南石垣村天神社神主ヲ以祭礼致執行候

右者今般御取調ニ付社傳旧記之趣書記言上仕候以上

慶応四年辰五月

豊後国速見郡南石垣村

天神社神主兼当村神主

佐藤近江正藤原朝臣光栄 ㊦

朝廷ヨリ京都神祇官ニ御達シ九州鎮武士長崎御下向相成候

弘前素頭様ヨリ御取調方長國新次郎殿古加一平殿兩人通〇相成候
而御受取役豊前宇佐宮神官古成並松両氏別府ニテ相納申候

一、石堂三ツ 但石仏三ツ 地藏薬師観音

一、石地藏三ツ 右之通り御座候

第十三号

明治四年嘆願書

乍恐奉差上御嘆願書

鶴見嶽火男火禊神社ノ儀先年ヨリ私共兩人宮主爾而御鍵取御供米炊仕候儀年久敷ク相動罷在候 然ル処一昨々辰年御觸達之趣前条ニ候処差扣罷在茂然ルニ先代ヨリ由緒有之〇間相動来候儀今更御止メニ相成候〇者甚敷ケ敷次第御神慮ノ恐茂有之候間右御前廻古来ノ通御鍵取御供炊御神酒諸事奉供度存シ度候ニ付乍恐書付ケヲ以ッテ御嘆願書奉申上候間右願之通御聞濟被下置候様奉伏願候依之私共連印御願書奉差上候

以上

明治四年 辛未正月

御宮主

速見郡東畑村

田中覚衛門 ㊦

右同断

立石村

荒金荒次 ㊦

東畑村神主領

同南石垣村神職

佐藤繁樹

立石村神主領

神胤磨

東畑村庄屋

大野謙一

立石村庄屋

古屋熊八

別府 御役所

第十四号

蘆見嶽火男火壳神社略縁起

杼伊邪那岐伊邪那美命大八洲国ヲ始萬ノ神々ヲ生坐テ斬リ玉フ迦具

士神ノ御體タヨリ成坐ル天香山ヲ始テ磐群海水ノ底ニ至ルマデ火ヲ

含ヌ物ナント言々

三代実録第十四冊十一丁目曰

五十六代清和天皇貞觀九年迦具士神荒ヒ玉フニヤ蘆見ノ嶺ニ火氣盛

ムニ燃上リ近国ノ人民大ニ恐レヲナシ起居不定日教経レ共火氣鎮ラ

ス益々盛ニ成火氣少モ鎮ス是ヲ以火産靈神ノ御靈ヲ和ラノ丁鎮奉ム

カ為ニ此山ヲ火男神火壳神ト奉称火ノ氣和シ玉ヘト祈奉ルニ火神御

心ノ和キ玉フニヤ忽チ戌亥ノ方鳴動シラヌケ出火氣モ鎮ケレバ諸民

大ニ喜悅厚祈ノ心ヲ起シ拜殿一字ヲ建立シテ大祭執行、致ケル又山

ノヌケ出タル跡ヲ里俗ニ地獄谷ト申テ今ニ至ルマデ火氣盛ニ立登ル

事普人ノ知所ナリ其後奏聞ヲトヂシカハ同年八月十六日壬午從五位

上火男神正五位下火壳神下シ給ル事三代実録ニ見ヘタリ又絶頂ノ山

勢東西二ツニ分レ中ニ火氣有東ヲ男嶽ト唱西ヲ女嶽ト唱女男二ツナ

レバ此山ヲ都留身ト呼是麻具波比意ナルヘシ 東ノ嶺ヲ火男神西ノ

嶺ヲ火壳神ト称辞申テヨリ山ヲ神体トナシ奉祭所ナリ 延喜御式豊

後国速見郡火男火壳神社二座ト神名帳ニノセタル所此鶴見山ナル事

顯然タリ 実式内及国史見在ノ神ナル事明ラカ也

因而仁明紀清和紀三代実録曰大宰府言從五位下火壳神社二社在ニ豊

後国速見郡鶴見山頂ニ有ニ三ノ池一。一ノ池泥色青ク一ノ池ハ黒ク

一ノ池ハ赤シ去正月廿日池震動ス其ノ声如シ雷ノ。俄ニ而見ル如キ

硫黄一。遍ニ満ス国内ニ。磐飛乱ヲ上下瓦^ツ數石ノ大ナル者ハ方丈

ナル者ハ如レ甕。晝ノ黒雲蒸シ夜ハ炎火熾エ沙泥雪ノ如ニ散リ積ニ

於數里ニ。池中元ト出ヌ温泉一。泉水沸騰自成ニ河流テ山脚ノ道路

往還不レ通セ温泉ノ之水テ於衆流ニ。魚醉死スル者千萬數其震動之

声経ニ歴ス三日ヲ。又曰八月八日甲戌下ニ知大宰府ニ命下豊後国一

鎮中謝神山崩ノ之怪ヲ焉

霽見嶺上ノ光景ハ本社拜殿ヨリ踊石迄亥ノ方ニ当テ道法二十丁

縁起書

但踊石ヨリ二丁末ニ当テ古宮アト有此所ニ尅畝歩計ノカラ池有此

旧縁起並伝来之創古器等有之候へ共天保九年五月失火ノ節焼却仕候
尤棟札之寫旧神主宅へ所持致候ニ付記載仕候

間ニ御神木ノ古木ノカブ有ル

踊石ヨリ五丁戌ニ当テ字小屋トコト申此所ノ池泥水ニシテ色青ノ広

一、棟札

サ五反歩又字小屋トコヨリ亥ノ方ニ当テ字地獄谷ト申テ道法七丁

立石村庄屋並神主

但地獄ノ地広サ尅町歩尤東西ニ別レテ火氣盛ニ相見江申候從前此

古屋作兵衛

火氣ノ所ヲ赤池ト申傳候

宮主

又地獄谷ト申テ道法七丁 但地獄ノ西ノ此嶺ヲ火壳神ト奉崇又地獄

荒金五右衛門

谷ヨリ東ノ嶺山マデ十丁辰ノ方ニ当ル此嶺山ヲ火男神ト奉崇

立石氏子中

但此嶺ヨリ四丁辰ニ当テ色黒キ池此広サ尅反五畝歩字サカリヤブ

奉建立 鶴見山大權現大檀那御代官

ト申伝候

三田次郎右衛門公

此嶺ニ有経塚天正十八年卯九月ト彫シ御座候

延宝戊午

立石村庄屋兼神主

東畑村 立石村

古屋作兵衛

明治五年壬申四月

奉建立鶴見山

宮主 荒金五右衛門

西寒多神社

大權現大檀那御代官三田次郎右衛門公

立石氏子中

御神官 衆中

地頭代 古屋作兵

大野左衛門

神主 佐藤甚太夫

宮主 田中角兵衛

五月八日

東畑氏子中

大工 江藤窓右衛門

ラル

一、光林坊跡

福寿院跡ノ直下ニアリ之方五間半ノ堂宇ナリシモ明治維新後廃セラレテ耕地トナル、此堂ニ木彫ノ如来像三部像地藏堂アリシヲ今行常寺跡ニ移ス

一、門杉

本社ヨリ参道ヲ下ルコト約八十間前面ニ數百年経タ老杉ガ門状ニ二本アツタガ明治初年伐採サレ切株ノミ残ル

本社

鶴見嶽の中腹

一、石造宝塔

本社前庭ノ崖下ニアリ元鐘樓ノ側ニアリテ四方仏ト呼ビシヲ明治ノ初年鐘樓除去ノ際現在地ニ移ス

一、鐘樓跡

鳥居峠ヨリ本社ニ至ル参道ノ中程右側ニアリ展望極メテ広キ所ニ位置ス 明治ノ初年鐘樓及鐘ヲ除去ス

□いぬ十二月十五日」ト銘ス

一、鳥居

一、常行寺跡

本社前参道ノ東側ニ在リ 今僅カニ跡ヲ存シ方一間ノ堂宇内ニ平安朝ノ作ト認ム木彫天部像及如来像、室町時代ノ作ト認ムベキ數個ノ小仏像アリ 及徳川時代ノ作木彫不動尊像現存ス

参道ヲ南ニ下ルコト八丁字鳥居ト稱スル土地ニ建設スル。徳川初メノ作。

一、福寿院跡

本社参堂内杉東側ニアリ 今猶堅三間半横四間半ノ草堂存シテ釈迦仏及観音仏ノ銅鑄アリ、二個共鎌倉及至室町時代ノ製作ト認メ

シテアル

×

×

拜所

塚原、温湯、鳥居、三ヶ所

第十六号

差上御願書

油布院郷東畑村

朝見莊 立石村

一、露見山火男火売神社式内之儀再応取調可申上旨被仰付奉長候

右ニ付一山之因在勿論夫々再度取調候処相違無御座候

依之御繪図相添左ニ奉申上候

一、繪図面ニ書載候通行常寺内坊中ニ院共眞言宗而近来迄相統罷在候

当時血統無之外人ヲ以爲還俗仕宮守ニ申付罷在候

一、右山上之池崩震動聲経日止ト言々

昔時里人山上ノ火氣盛火盛恐怖シ火勢鎮祭ン懇祈仕一山ヲ御神体

トナシ奉拝殿一字ヲ建火ノヲノ神ト尊崇シ其後差間ニ依而貞觀十

九年八月十六日授豊後国從五位上火男神火咩神並正五位下ト言三

代実録ニ詳略之右之次第ニ而只今迄御幣ヲ以御神体トシ祭祀仕来

候

一、天保度拝殿火災ニ而宮記焼亡住昔ノ〇弘分不申其時代東畠村之儀

者南石垣佐藤繁樹ヨリ祭礼諸事支払仕来申候 立石村ノ儀者龜宝

山行常寺ト申眞言宗之社僧ニ而坊中ニ院有之慶長六年檢地〇〇〇

武藏坊宝泉坊ト畠主ノ名前有之其後元和時代ヨリ吉田附神職古屋

七良方ハ祭礼諸事支配仕来申以當時坊中之跡宮守之境内取締申付

罷在候

一、右神社者速見郡油布院郷東畑村朝見莊立石村兩村之内ニ御座候

一、露見村火男火売神社之儀又政末天保最初度〇伊嶋又兵衛ト申もの

吉田表ハ致依頼右額申受〇夫迄者熊野權現勤請者宝曆年中鳥居ニ

茂只權現宮ト有之度いて恐御神躰石ニ而内殿江三社〇〇之段衆知

仕候 熊野三社ヲ祭所乎

一、右神社油布院内温湯村ニ茂白川家ヨリ火男火売神社之額申受〇所

有之度是在 露見村〇以前之儀ニ御座候 則同所石武村神職立川

盛保方ニ御座候

一、右兩所共遙拝所ト想〇度ニ付其儘ニ閣申候無節在いて恐從

朝廷御取調ニ付式内之本社有体申上候

右之通再度取調候処相違無御座候

住古者社僧神職共式内式外之次第何分〇弁無之神名〇茂唱来通ニ

而祭礼而已仕来度者相見ハ旧記〇茂相分兼申上候

一、山繪図面御引合被成〇可然様御処知之程奉伏願候

壬午十月

見嶽神社神主

西寒多神社神官総代

佐藤繁樹 ㊦

牧園 眞守

立石村兼朝見神主

大分県 御廳

神 徹磨 ㊦

第十八号

第十七号

大分県廳 借付

願 書

明治七年神社書上帳 寫

一、直入郡健男霜凝日子神社

豊後国第二大区第十五小区

岡出張所分 祖母山下神原村鎮座

郷社 立石村

一、速見郡宇奈岐日女神社

字鶴見嶽鎮座

鶴当県下油布院温湯嶽本兩村鎮座

一、火男火壳神社 式外

一、同郡 火男火壳神社

氏子 百三拾六戸

当県下東畑村立石村鎮座 遙拜所他村に有之

旧帳 四百二拾一戸

一、海部郡早吸日女神社

祭神 火男神 火壳神

鶴崎出張所分 在賀関鎮座

一、嘉祥二年六月鎮座ニテ御座候

五神社之儀者当国御式内兼国史及記録現在之伝記 成儀御座候処

一、社格之義祭祀ノ前日当村東畑村兩村氏子集会ノ上山上火氣ノ地又

昨今多クハ荒廢仕居何分歎ケ敷傍觀ニ不忍仍而夫々伝記取纏差出

踊り石ト申御神石古来ヨリ御神体ト申伝テ今敬拜仕候

候間何卒宮社之列ニ御加入有之候様奉歎願候

其ノ餘爲差義無之候

壬申三月

一、境内地三反七畝五歩

但し平地二畝三歩

山林三反九畝二歩

立木百三拾本

一、神殿 無之候 山上之火氣三ツ池御神躰ト尊崇仕来候

一、拝殿

長 九尺 横八尺

一、廻廊

長 五間 横二間半

一、人民厚く信仰仕候

一、年中祭日 三月九日 六月九日 九月九日

一、社人 無之候

第十九号

元宮

1、噴火の振動で石が踊るように動いた

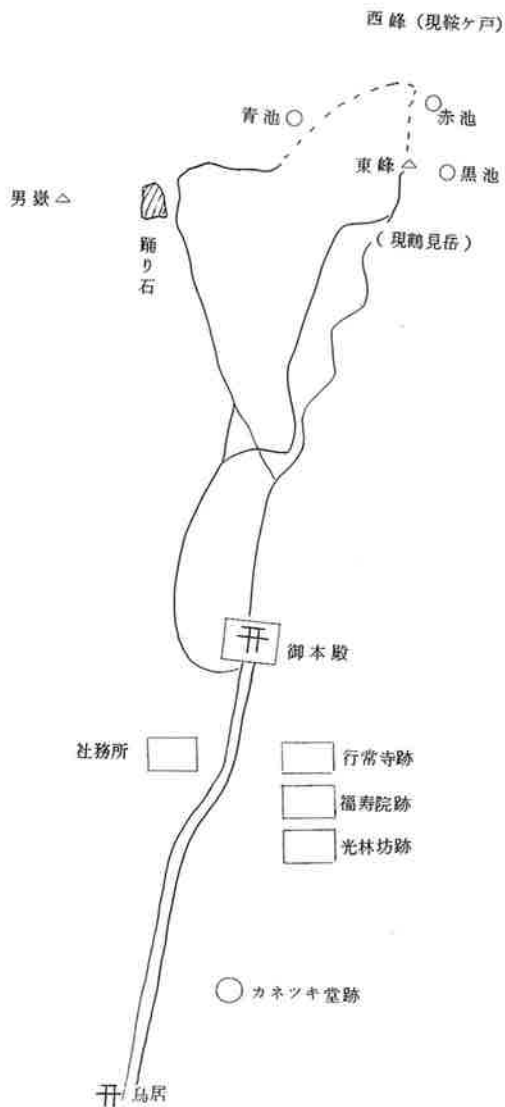
2 景行天皇が土ぐも討伐にきて火の神の祀りをして御神体にしたとい

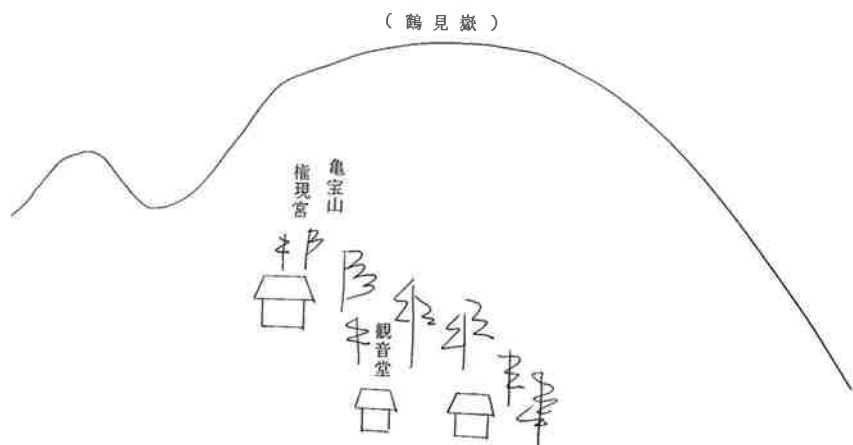
う

3 旧九月九日祭礼の前日宮総代一人が酒五合もつて詣りシメ繩を張り

かえ翌日初めて祭礼ができた

御嶽火男火売神社配置図





卍

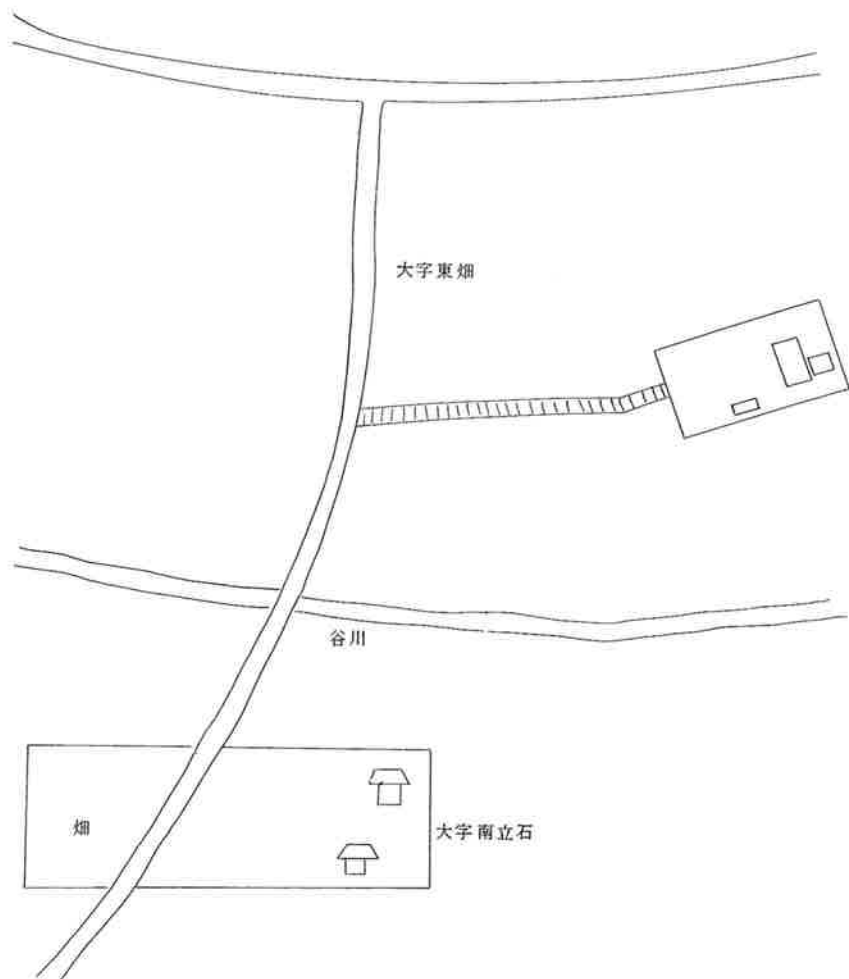
東畑村元庄屋跡

田中 勇氏所藏

東畑村地図ニヨル

古屋氏蔵

火男火壳神社見取図



別府市東山小杉部落屋号並配置調

⊕ 神宮田中家

□ 鳥居田中店

